

(参考様式6)

事業活用活性化計画目標等評価報告書

作成日：令和元年8月6日

ふりがな	はいばらちくかつせいかけいかく
活性化計画名	榛原地区活性化計画
ふりがな	しずおかけん
計画主体名	静岡県
計画主体コード	220001
計画期間	平成26年度～平成30年度
事業実施期間	平成26年度～平成30年度※1
活性化計画区域	静岡県牧之原市 榛原地区

※1 平成28年度以降は関連事業（農業基盤整備促進事業）で引き続き実施（予定含む）

1 事業活用活性化計画目標の評価等

(1) 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用 活性化計画目標	目標値 A	実績値 B	達成率(%) $C = B / A$	備考
定住等の促進に資 する農業用排水 施設等機能の確保	20ha 〔うち、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金分 13.0ha〕	19.9ha 〔うち、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金分 14.1ha〕	99.5% 〔うち、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金分 108.46%〕	

(コメント)

これまでに整備された施設に農業用排水施設等の追加的・補完的整備を実施した結果、本地区の基幹的農作物である茶の高品質な生産や営農の効率化が進み、農業経営の安定化につながり、定住化に資することができた。

(2) 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	農地等補完保全整備 (56 産地振興追加補完整備)	
事業内容及び事業量	農業用排水施設 11.6ha (うち農山漁村プロジェクト交付金により実施 7.8ha) 農業用道路 3,200m (うち農山漁村プロジェクト交付金により実施 1,833m) 区画整理 1.4ha	
事業実施主体	静岡県	
管理主体	榛原茶園整備組合	
事業着手年度	事業竣工年度	供用開始日
平成 26 年度	平成 27 年度 (関連事業については令和元年度 (予定))	平成 28 年 4 月 1 日 (関連事業については令和 2 年 4 月 1 日 (予定))
事業の効果	国営牧之原農業水利事業、県営畑地帯総合整備事業で整備された基幹施設に加え、本事業により園内かん水施設等の追加的・補完的整備を実施したことにより、茶の高品質安定的な生産が可能となり、牧之原茶のブランド力が強化された。また、農業用道路、区画整理等を併せて整備することにより、営農の効率化が進んでいる。	

(3) 総合評価及び今後の方針

(コメント) 耕作者の要望に応じて、きめ細やかな整備を行ったことにより牧之原茶の品質が向上し、スプリングラー、農業用道路等の整備により営農の効率化が進み、農業生産性と農業所得の向上を図られた。 今後も園内かん水施設等の整備を進め、茶の品質向上を図っていくとともに、農業生産の更なる効率化と担い手農家への農地流動化を進めるため、区画整理を中心とした基盤整備を進めていきたい。
--

(4) 第三者の意見

第三評価者	(所属) 牧之原市農業委員会 会長	(氏名) 平 幹夫
(コメント) 牧之原市の基幹農作物である茶は、日本一の大茶園「牧之原台地」を中心に県内一の生産量だが、近年、茶価の低迷や作業条件不利地を中心とした耕作放棄地の拡大など、生産量の減少や景観の悪化により農業を健全に維持しにくい状況にある。 本事業により、静岡牧之原茶の茶業の活性化に一定の効果があったものの、意欲ある担い手が、効率的な農業ができるようにするためには、本事業のような基盤整備や土地改良施設の整備が引き続き必要である。		